

国立天文台・天文情報センター・アーカイブ室 中桐正夫

*** 50mm バンベルヒ子午儀を「三鷹市星と森と絵本の家」に展示**

国立天文台には、アスカニア・バンベルヒ子午儀が90mmバンベルヒ子午儀2台、70mmバンベルヒ子午儀1台、50mmバンベルヒ子午儀の4台の存在が確認されていた。東京天文台70年史には90mmバンベルヒ子午儀が3台と記されているが、この3台目の消息は知れない。

このうち50mmバンベルヒ子午儀は全国各地の経緯度測量に持ち運ばれたもので、その活躍ぶりは、アーカイブ室新聞第176号に「50mmバンベルヒ子午儀による天文経緯度測量論文3点発見(2009年5月14日)」、そして、アーカイブ室新聞第175号に「50mmバンベルヒ子午儀の創意工夫について(2009年5月8日)」という記事を書いた。この50mmバンベルヒ子午儀は、発見以来、子午儀資料館に展示してあったが、2009年7月7日に開館した「三鷹市星と森と絵本の家」に貸出し、展示されることになった。写真1が50mmバンベルヒ子午儀である。

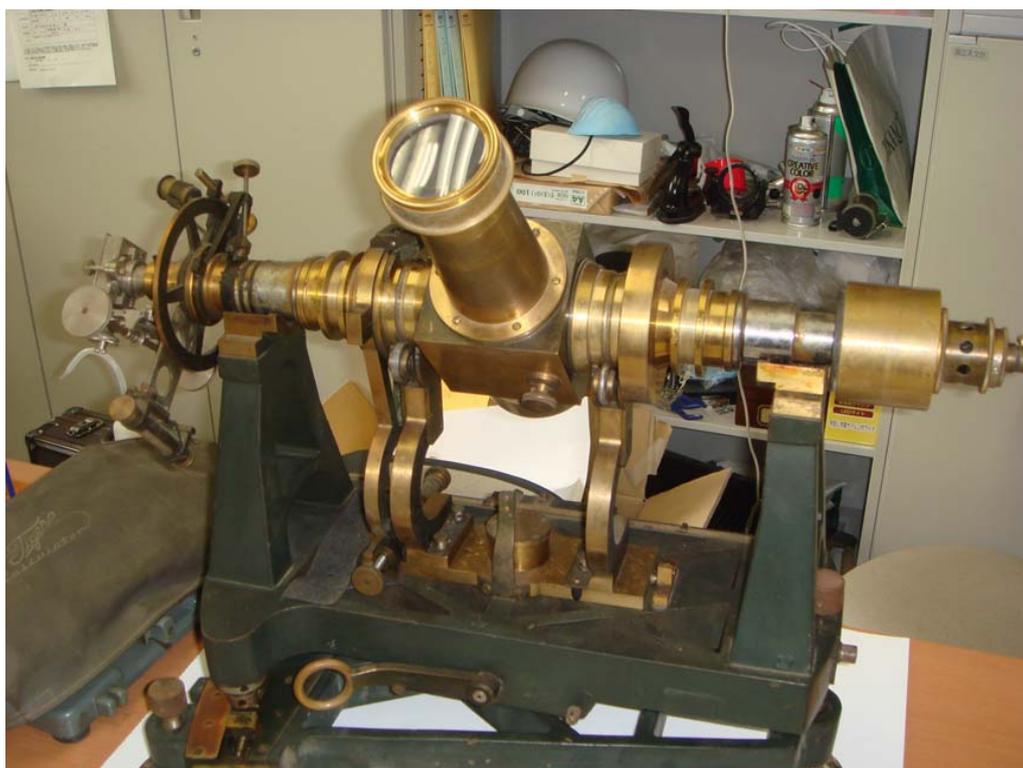


写真1 三鷹市星と森と絵本の家に貸し出された50mmバンベルヒ子午儀

三鷹市星と森と絵本の家は、東京天文台が麻布飯倉の地から三鷹に移転する際、建設の拠点として、大正4年に建設された1号官舎の保存と有効利用として活用されたものである。1号官舎は、高等官官舎(高等官:教授、助教授、技師(古在元台長談))として建設されたが、当初は三鷹への移転に活躍した人々の合宿的な宿舎として利用され、後に教授クラ

スの官舎として使われた。高等官官舎は他に3号官舎があったが、3号官舎は半分ずつに引屋によって分割され2件の官舎として使用された。他に判任官（判任官：助手、技手（古在元台長談））官舎が5軒建設された。台長官舎はその後14号官舎として2階建ての大きな官舎が建設された。三鷹キャンパスには最も多い時で官舎は44棟、47軒があった。それらの三鷹キャンパスの宿舎が全て廃止される際、1号官舎も取り壊しの運命にあったが、100年以上を経た大正初期の建物として文化的価値があるとして1軒だけ残さされたものであった。写真2は「三鷹市星と森と絵本の家」として解体後再建された1号官舎である。



写真2 三鷹市星と森と絵本の家として再生された1号官舎

1号官舎は8畳間が東西に4部屋並び、その南北に廊下があった。その北側廊下の西詰め押入れが50mmバンベルヒ子午儀の展示場になっている。開けてびっくりという趣向であるが、この趣向だと存在に気付かない人が殆どだと思われる。写真3が展示の様子である。



写真3 展示された50mmバンベルヒ子午儀